

目的 前報において、被服に対する嗜好性について述べたが被服に付随するアクセサリ－はもとよりヘアースタイルや化粧も性格を知る上で大きな役割を持っていると考えられる。そこで、服装を形成する上で重要なポイントとなるものを性格との関係について報告する。

方法 調査内容は、① Y G 性格テスト検査による12の性格尺度の5つのプロフィールによる類型。② アクセサリーに関する5項目、ヘアースタイルに関する9項目、化粧に関する10項目、トータルイメージに関する8項目の合計32項目とした。尚、調査対象者調査日は第1報と同じである。

結果 Y G 性格テスト検査より、「非熟慮的、瞑想的」な学生は前髪を後ろと同じ長さに垂らし、アイシャドウをよくするのに対し、「熟慮的、非瞑想的」な学生は前髪を眉が見る程度に短くし、アイシャドウはしない傾向にあることがわかった。トータルイメージのマニッシュ系(自立する女でありたい)を希望する学生は、スカートよりパンツを着用する傾向が高く、「自分と同じ服を着ている人を見たらその服は着たくない」「グループででかけるときは他の人と服を合わせる」などの質問に、マニッシュ系を希望しない学生より肯定的で、さらに「下着に少々のほつれがあっても見えないからまあいいと思う。」には否定的で、おしゃれに対する意識が高かった。